

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（販売促進担当）	・12月後半から来客数・販売量ともに、わずかではあるが上向きであり、1月以降に期待が持てる。
		その他レジャー施設（職員）	・プロ野球やサッカーのシーズンが始まり、季節的に来場者が増える。更に地元プロ野球チームの昨シーズン後半の盛り上がり、地元サッカーチームの天皇杯善戦により、動員数の増加が見込まれる要素がある。それに伴い、チケット収入、飲食、物販の収入が増加することが予想される。
		美容室（経営者）	・欲しいと思う商品に対して興味を持つ客が以前より多くなってきている。
	変わらない	設計事務所（職員）	・不動産取引の動きが以前より多くなったように感じるため、全体としてはやや良くなる。
		商店街（代表者）	・春物への切り替わりが早くなってくると思われるが、まだ、これといったアイテムのトレンドが出ていないので何ともいえない。
		百貨店（売場主任）	・産業再生機構の管理下にある大手スーパーの問題があるが、函館においては恐らく具体化されず、先行き不安が商圈全体を覆い、消費マインドを引き下げる要因となる。
		スーパー（店長）	・12月商戦でのギフトの不振や必需品以外の購入の傾向からみても、先行きは厳しい。
		スーパー（店長）	・客の買物は日替わりの目玉商品が中心であり、余計な物は買わない傾向がますます強まっており、店に踊らされる買い方はしない。一方で、客は必要な物は買うという傾向ははっきりしているため、店のマーチャンダイジングが非常に大切になってきている。
		コンビニ（エリア担当）	・公共投資が削減され、所得税も増加する動きの中で、消費意欲は減少する。数量は伸びているが、価格の安い商品へのシフトは続いており、全体としては大きく変わらないが、どちらかといえば消費は悪くなる方向にある。
		コンビニ（エリア担当）	・所得税の増加や社会保険の増加など、個人の収入が増えない中で税金が増加するため、消費者の買い控えは今後も続く。
		衣料品専門店（店員）	・年明けのセールによって、客数、販売量ともに伸びが期待できるが、客単価は下がるため、売上の伸びはそれほど期待できない。
		家電量販店（店員）	・市内全体では大型電機店がオープンした10月の売上金額が大きく、その反動が出てくる。
		乗用車販売店（従業員）	・客から色々話を聞いても良くなる要素があるようにみえない。特に、函館では産業再生機構による支援を要請した大手スーパーの関連会社の百貨店の存在がどうなるかがあり、皆不安である。
		高級レストラン（スタッフ）	・売上増加のための各種イベントを実施しても、日々の売上の減少を補うことはできない状況であり、今後も変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	・1～2月の予約件数は前年を上回って推移している。また、単価も少しではあるが上昇してきている。		
旅行代理店（従業員）	・相変わらず販売状況が低迷している。		
タクシー運転手	・3年前の規制緩和以来、新規参入で新しいタクシー会社が徐々に増えていることと、既存事業者の増車により、札幌でのタクシーの台数は1割以上増えている。一方で、利用客は増えていないので、一台当たりの売上がますます減少している。経営が苦しくなり、民事再生法を申請する会社も出てきている。		
住宅販売会社（従業員）	・所得の低下が今の販売量の低下につながっているようである。今の経済状況から大きく変わる要素が認められないので、状況としては今の状態が推移する。		
やや悪くなる	一般小売店〔酒〕（経営者）	・9月から売上が頭打ちとなっており、今後もこのままの状態が続く。	
	百貨店（売場主任）	・高額品の動きがみえてこない。冬物のバーゲン時期になるが、数量、単価とも動きが厳しくなる。	
	百貨店（役員）	・原油高によるガソリン、灯油の値上がりが高止まりで続いている。明るい話題もあるが、家庭に響く支出が多く、購入意欲を減退させている。	

		スーパー（店長）	・全国ベースでの個人消費はやや明るさを示したものの、北海道における改善の兆しはいまだに不透明である。原油高要因も大きく影響している。小売現場では日々の客の動向が天候、競合店の販促状況、当社のプロモーションで大きく左右されるため、不透明感は否めない。
		スーパー（企画担当）	・実質的な増税や地元企業の業績悪化などの要因で、消費者心理が冷え込むことが予想され、今後の消費動向も予断を許さない状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・12月末といえども、景気は活気がみられないような状況であり、今後の税金問題が影響して、買い控え等が必ず起きる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・道内客が不振であることに加えて、道外のツアー客も伸び悩んでおり、海外からのインバウンドでこれを埋める傾向が続いている。人数の増加はある程度期待できるが、単価は伸び悩んでおり、全体としては厳しい局面が続く。
		旅行代理店（従業員）	・ボーナスの動向や所得減税の中止などで、家族旅行は近距離傾向が強くなっていく。
		観光名所（職員）	・タクシーの空車が以前より増えてきており、ますます悪くなるように感じている。
		美容室（経営者）	・客の会話の中で、さっぱり景気は良くなり、段々と生活が苦しくなってきたという声をよく耳にする。
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の核店舗である百貨店が、系列の大手スーパーの産業再生機構の活用に伴い売却対象となり、成り行きが注目されている。最悪な状態を想定すると商店街は壊滅的な状態となる。
		一般小売店〔土産〕（店員）	・今後、安い海外旅行に押されて、北海道旅行の人气が落ちて来道客数が減り、空港利用や観光地の売上に響いてくる。
		観光型ホテル（経営者）	・愛知万博の影響が計り知れない。地域によってはマイナスに動くことは必至である。また新税制、ペイオフ、年金制度の問題なども、旅行機運・消費性向にかなり影響してくる。
企業動向関連	良くなる	家具製造業（経営者）	・請負製品の受注残が多い。
	やや良くなる	建設業（経営者）	・3月には公共工事のゼロ国債工事が発注になる予定であり、また、民間建築工事も雪解け後の引き合いが出始め、量、価格は別としてマインドは若干好転する。
		通信業（営業担当）	・ここしばらく受注量と案件問い合わせは横ばいの感じがあったが、年明け以降の計画や業績予定に関して計画値以上の数量が出てきた。
	変わらない	金融業（企画担当）	・函館までの新幹線着工決定という明るい話題もあるが、一般的には所得環境が厳しく、個人消費や住宅着工の低迷が続く。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・道東の工事量が大幅に減少しているの、道南方面の盛り上がりと相殺され、全体としては今と状況は変わらない。
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	・現在のところ、道内からの出荷貨物は順調に推移しているものの、道内需要の落ち込みで各種資材の入荷はダウンしている。そのことから第4四半期は落ち込み、悪化が予想される。道内の場合、資材価格の上昇が販売価格に転嫁できないため、コスト吸収力が落ちている企業は破たんの可能性が出てきた。
	悪くなる		
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・新春からの新戦力導入や新規組織などの動きが一般企業にみられることに加えて、新卒雇用の早期退職に対する中途採用による雇用対策の動きが出てくる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・飲食、小売などの個人消費関連の求人筆頭に、どの業種もおおむね増加傾向が続く。ただし、求人の中身は、アルバイト、パート、派遣などの非正規雇用が中心で、就職事情が好転するほどの変化ではない。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・業務請負業など、特定の業界に依存している面があり、道内企業の観光、サービス、小売業に関しては顕著な動きが感じられない。
		職業安定所（職員）	・パート求人や就労地が道外である求人の割合が増加しており、今後も地元求人に大きな動きがみられない。
		職業安定所（職員）	・今まで採用を見合わせていた企業からの求人申込があるが、補充的な意味合いで、雇用拡大のための求人になっていない。
	やや悪くなる		

	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・建設関連が動かないことは北海道においては厳しい。観光はさっぽろ雪まつりで一時的に盛り上がりを見せるが、そこから発生する雇用も短期間であり、3月のセール関係についても例年を下回る可能性が高い。企業業績に明るさがみられず、雇用環境の改善が見込まれない。
--	------	------------	---